

てくてく 古道を歩こう

いちかわみち
市川道

八代編



笛吹市教育委員会文化財課主催
平成 29 年 12 月 2 日

本日のコース

集合・スタート: 笛吹市役所八代支所駐車場



1: 熊野神社



2: 団栗塚古墳



3: 甲子塚・馬頭観音



4: 金地蔵



5: 地藏塚古墳



6: 道標



7: 永井天神社



8: 瑜伽寺



9: 八代郷土館

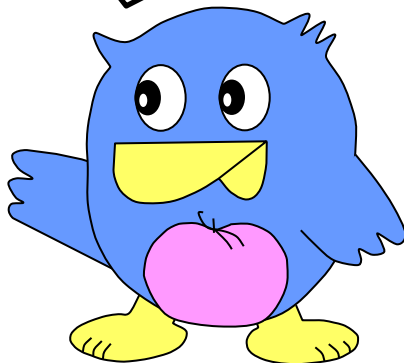


10: 定林寺・二子塚



★ゴール: 八代支所駐車場

約 4.8km の道のりです。
車に気をつけて
ください。



☆八代の市川道について

今年度の古道めぐりは市川道の「八代ルート」とその周辺の文化財を訪ねています。この道が「八代ルート」と呼ばれているように八代町地区はこのルートの中核になります。その理由の一つに八代でもう一つの古道「^{わかひこじ}若彦路」と交差していることが挙げられます。

「若彦路」はヤマトタケルノミコトが東国征伐の途中に通ったという伝説が残っており、「若彦路」の名称はミコトの子、ワカタケヒコに由来しています。また、鎌倉時代に編纂された『^{あづまかがみ}吾妻鏡』という書物には^{じしやう}治承4年(1180)に^{かいげんじ}甲斐源氏が軍を進めた道として記載されており、古くから甲斐と駿河を結ぶ重要な道でした。若彦路は時代によって何度か道筋を変えており、『山梨県歴史の道調査報告書第8集 若彦路』では、八代地内の若彦路を「古道」「新道」「新々道」の3つのルートを挙げています。

八代はその若彦路と市川道が交差する交通の要所であり、紀伊(和歌山県)の熊野神社の^{しやうえん やつしろのしやう}荘園「八代庄」が置かれた場所でもあります。荘園とは貴族や寺社の直轄領地であり、^{ねんぐ}年貢を納めるとともに物流・交易の拠点でもありました。市川道沿いに熊野神社が多いことから、その交通・交易に八代庄が大きな役割を果たしていたことが窺われます。



南北熊野神社

1 南北熊野神社

熊野神社は、八代町南地区と北地区の鎮守です。朱鳥年間^{しゅちゆう} (686~700)に紀州熊野からイザナギノミコトとイザナミノミコトを勧請^{かんじょう}したのが始まりとされています。

平安時代後期、この付近には熊野神社の荘園「八代庄」がありました。八代庄^{きゅうあん}は久安年間 (1145~51)に甲斐守藤原顕遠^{かひのかみふじわらのあきとお}が熊野本宮^{くまのほんぐう}大社に寄進したもので、その2~3年後に鳥羽法皇^{とぼほうおう}によって正式に荘園として認められました。南北熊野神社は八代庄の鎮守として本社から分祀されたものと考えられています。

熊野神社には「長寛勘文」^{ちやうかんかんもん}という書物の写本が保管されています。これは平安時代後期に国衙^{こくが}が熊野神社の荘園を廃止しようとした事件に対する裁判の記録です。また、鎌倉時代に描かれた絹本著色熊野曼茶羅^{けんぼんしゃくしよくくまのまんだら}も保管されています。

境内には、笛吹市の天然記念物に指定されているイチョウやコウヤマキの古木が茂っており、神社の古さを物語っています。コウヤマキは神社のご神木で、明治18年に本殿や拝殿が焼失した際に幹の東側が焼けてしまいました。今でもそのときに焼けた痕跡が残っています。



絹本著色熊野曼茶羅

平安時代の八代を騒がせた 八代庄乱入事件

事件の経過

○おうほう応保2年(1162)1月27日

新任の甲斐守藤原忠重ふじわらのただしげが、成立の怪しい荘園を廃止するため目代もくだい (国司の代理人) なかはらきよひろの中原清弘を甲斐国に派遣する。

○10月6日

中原清弘ざいちょうかんじんが在庁官人(現地の役人) さいぐさもりまさ三枝守政らを率いて八代庄に乱入。

- ・年貢を奪い取る。
- ・じにん神人(神社の使用人)らを捕まえて監禁。口を切り裂く。
- ・荘園の範囲を示した立て札を引き抜いて捨てる。

○11月

熊野神社しょうかそんもつちゅうもんが庄家損物注文(被害状況報告)を作成。翌月朝廷に訴える。

○12月21日

朝廷が藤原忠重に、奪った年貢や物品を返却することと、実行者2人の逮捕・連行を命ずる。

○応保3年1月29日

藤原忠重が朝廷に弁明。八代庄の廃止は命じてないと主張。

○3月4日・10日

けびいしちょう検非違使庁で中原清弘・三枝守政の尋問。

清弘→忠重が命令した文書のなかに「八代庄」も書かれていた。
守政→清弘に命令されてやっただけ。

求刑は

○なかはらなりみち中原業倫 (明法博士)

①熊野の神様は伊勢神宮の神様と同じであり、その神物の強盗は はちぎやく 八虐の だいろくだいふけいざい 第六大不敬罪にあたる→ ちゅうるけい 中流刑

②人を傷つけたこと→こうしゅけい 絞(首)刑

③荘園の免税を認めた鳥羽法皇の命令に背いた→絞（首）刑
よって、3人とも絞（首）刑!!

ふじわらのこれみち
○藤原伊通

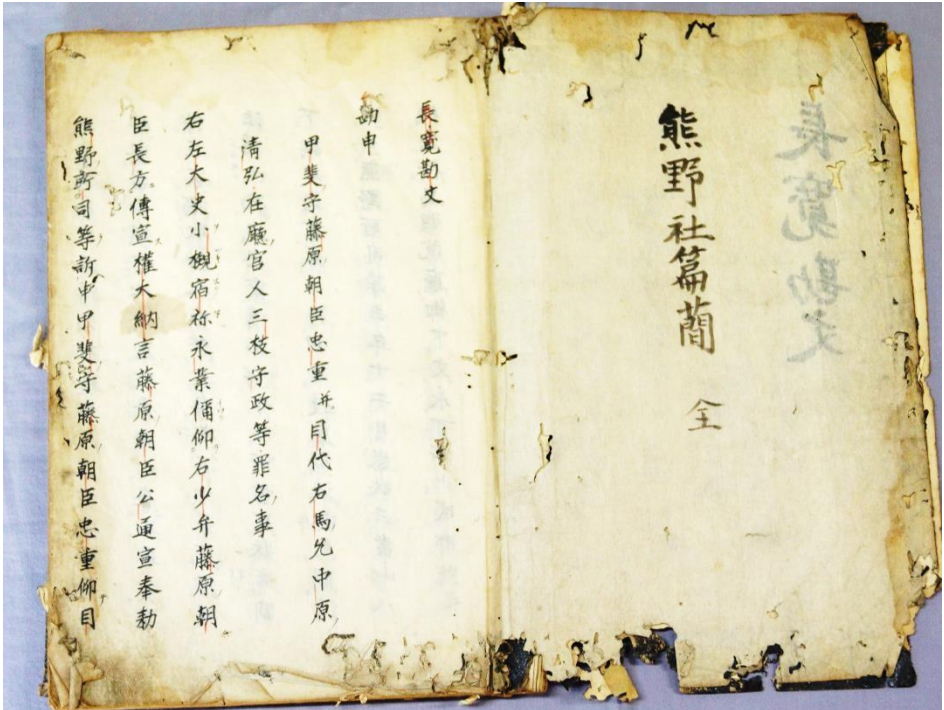
熊野神社と伊勢神宮の神が同一とは考えられない。

判決は

藤原忠重→伊予国^{いよのくに}(愛媛県)へ流刑

中原清弘→禁獄^{きんごく}(懲役)

三枝守政→書いてない(行方不明か?)



長寛勅文(写本)

2 団栗塚古墳

団栗塚古墳は、5世紀の終わりごろに造られた帆立貝式古墳ほたてがいしきこふんです。

帆立貝式古墳とは前方後円墳ぜんぽうこうえんふんの一種で、前方部が低く短いという特徴があります。地域の最有力者の古墳が前方後円墳であるのに対して、帆立貝式古墳は少しランクの落ちた古墳であるといわれています。団栗塚古墳は明治22年(1889)に前方部が削平され、直径約18m、高さ約3mの後円部だけが残されました。埋葬施設は後円部の墳頂まいそうしせつにあり、東西に2つ並んでいます。東側の埋葬施設は長さ1.73m、幅0.7mの組合せ石棺、西側の埋葬施設は長さ2.4m、幅0.7mのたてあなしきせきしつ堅穴式石室で、両方とも内部が朱塗りされていました。

副葬品は、東側の組合せ石棺から銅鏡・直刀・玉類どうきょう ちよくとうなどが出土し、西側の堅穴式石室から直刀・鉄鎌・土師器てつぞく はじきなどが出土しました。

このうち銅鏡は直径11.5cmの舶載鏡はくさいきょうで、菱雲文帯半円形方形四乳鏡ひしうんもんたいはんえんけいほうけいしにゆうきょうという型式です。山梨県の有形文化財に指定されており、熊野神社の宝物庫に保管されています。その他の出土品は、残念ながら現在は行方不明です。



団栗塚古墳



銅鏡

3 ばとうかんのん かっしとう 馬頭観音・甲子塔

御坂の五本辻から続く市川道は、畑の中を通り出黒川・天川を渡って堀川を越えると八代の村中に入ります。

堀川に架かる橋の北側には馬頭観音が祀られています。ここは若彦路(古道)と市川道が重なる部分であり、三叉路を右にたどると若彦路を使って芦川へ、左にたどると市川道を使って御坂方面へいくことができます。

橋の南側には甲子塔といくつかの石造物が祀られています。甲子は、60日に一度の甲子の日の夜に商売繁盛、五穀豊穰などを子(ねずみ)を使者とする大黒天に祈る祭りです。子の刻(深夜12時)まで起きていて大豆・黒豆・二股大根などを食べました。この祭りは甲子待、甲子祭、甲子講などとも呼ばれています。「甲(きのえ)」は十干、「子(ね)」は十二支の一番初めであり、陰陽道ではこの組合せの干支が祭りをを行う最も吉日とされています。この甲子塔は元治元年(1864)まさに甲子の年に建てられました。八代には甲子塔が3基ありますが、いずれも北地内にあります。



馬頭観音



甲子塔

かなじぞう

4 金地蔵

市川道と若彦路(新道)の交差点(辻)には、8基の石造物があります。昔この辺りに長者が住んでいて、自然の風景を眺めながら歌を詠んだりして優雅に暮らしていました。ある日、長者は自分の持っていた黄金じぞうぼさつぞうを地蔵菩薩像の中に隠しておくことを思いつきました。そして子孫にもこのことを伝えるため地蔵の背中に「富士三里有金」と刻んで、小さな塚の上に安置しました。これが「金地蔵」です。

その後、ここを通りかかった六部ろくぶ かいこくじゆんれいそう(廻国巡礼僧)が金地蔵の背中に刻みである文字の謎を解き、金地蔵を壊して中の黄金を盗み取って姿を消しました。それからは長者の繁栄も次第に衰えていったそうです。

今ある石造物は宝永3年(1706)に造られた地蔵菩薩てんめいと天明5年(1785)に造られた子待供養塔こまちくようとう(幸福になることや豊作を祈る大黒天をまつって、供養行事を行った供養塔のこと)、それに6基の馬頭観音あんせいです。馬頭観音のうち最大のものは江戸時代末の安政5年(1858)に作られ、正面と左右に向く3面の顔と8本の腕が彫られた立像で、山梨県内でも優れた石仏です。



金地蔵

じぞうづかこふん

5 地蔵塚古墳

地蔵塚古墳は6世紀後半に造られた円墳で、その規模は直径約35m、高さ約5mです。墳丘の南側には埋葬施設の横穴式石室よこあなしきせきしつが開口しています。横穴式石室は右片袖式みぎかたそでしきの平面形で、全長10.1mあります。この規模は県内の横

穴式石室では5番目になるといわれています。

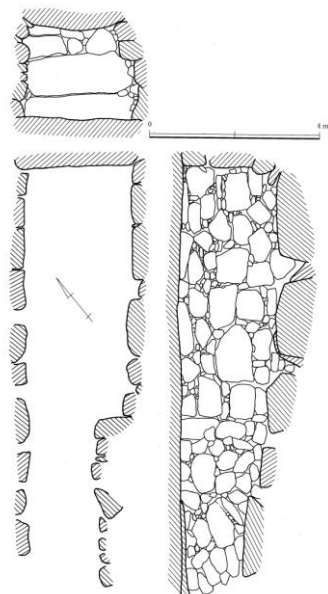
横穴式石室は古くから開口しており、江戸時代に書かれた『甲斐国志』かいこくしにも内部に地蔵菩薩が祀られ、地蔵塚古墳と呼ばれていたと記述されています。



地蔵塚古墳



横穴式石室入口



横穴式石室の内部

みちしるべ

6 道標

八代町の米倉・永井地内には市川道にまつわる道標が 3 基あります。

①永井（山之神）の道標

（倒れている?）

永井天神社前信号東の三叉路

「右ハ上あしがわ道

左ハかつぬま道」

きょうほう

享保15年（1730）



②永井(豊気)の道標

瑜伽寺門前

「右ハふちう道

左ハ市川道 七覚山江」

享保15年

③米倉(御所)の道標

浅川橋東

「右ハ市川道

左ハあし川道」

こうしんとう

庚申塔を兼ねる。

7 ながいてんじんしゃ 永井天神社

すがわらのみちざね はちまんのかみ くまのかみ
菅原道真・八幡神・熊野神を
祀る。江戸時代には、5年に一度
神官が江戸城に参上し、松の間で
はら
お祓いと扇子の献上を行い、将軍
に謁見するのが恒例であったと
いう。また、神主は天下安全の
きとう
祈禱として、毎月神前で連歌

こうぎょう
興行をするのがしきたりだった。
明治36年(1903)の境内図には、
はいでん
拝殿の西側に連歌所(堂)が描かれ
ている。このため、戦前には
こじき にほんしよき さか
古事記・日本書紀に見える酒
おりのみや
折宮に当社を当てる説もあった。

また、かぐらでん
神楽殿で舞われる神楽は
やまと だいだい
大和神楽あるいは代々神楽とい
われるものです。むろまち
室町時代に始め
られましたが一時途絶え、明治
21年(1888)に再開され、現在
も4月の例大祭などに奉納され
ています。



永井天神社拝殿



神楽殿



永井天神社の神楽

8 ゆかじ 瑜伽寺

霊亀元年(715)に創建されたと伝わる古寺です。伝承を裏付けるかのように、境内周辺で行われた発掘調査によって甲斐国分尼寺跡と同じ文様の瓦が出土しました。

本尊は薬師如来。寺伝によれば、薬師如来が白馬に乗って白梅の樹の上に現れたので、無音律師が祀ったのが創建のきっかけといわれています。大善寺・鎮目寺の薬師如来と合わせて甲州三薬師と呼ばれたそうです。「薬師夢想の眼薬」を作っていたといわれ、戦国時代には武田信玄が眼の病を患っていた次男の竜芳の快癒を祈願しました。

そぞうぶつ 塑像仏(奈良時代)

塑像仏とは粘土で作られた仏像のことで、古墳時代末ごろから奈良時代にかけて盛んに作られました。創建期の仏像と推定されますが、破損して断片となったため、大きな破片は東京の国立博物館に預け、小さな破片が残されています。

もくぞうによらいぎようぎぞう 木造如来形坐像(平安時代前期)

ヒノキの一木造りで高さは85cm。後世の補修が大きいので、当初どの如来だったのかは不明ですが、平安時代前期の特色を残した堂々とした如来です。



もくぞうじゅうにしんしょうりつぞう

木造十二神将立像(平安時代末期～鎌倉時代)

薬師如来を守護する12体の武神像。いずれも武装形で、鎧をつけ武器を持つ。薬師堂内に厨子の両脇に6体ずつ安置されています。



薬師堂(桃山時代)

正面3間、側面4間。妻入の寄棟造り。内部は手前2間が外陣、奥2間が内陣になり、密教の三間仏堂の平面構成を持つ。天正7年(1579)の修理の記録があり、それ以前に建築されたものと推定されています。



9 八代郷土館

昭和 40 年代の高度経済成長の頃、失われていくふるさとの民俗資料を保存していくことも大切だということで、当時の八代町では民俗資料収集委員をいしよく委嘱し、町内にある資料の収集活動を行ってきました。これら収集された資料は約 3,000 点にのぼり、昭和 52 年 4 月より郷土館の本館や土蔵等において展示・保管されています。

郷土館の土地と建物は、昭和 46 年（1971）に大森節夫氏から町に寄贈されたものです。本館の建物は、大地主だった大森嘉四郎おおもりか しろうが明治 18 年（1885）に山梨市小原で建築途中の建物を移築した武家風様式の建物です。明治 32 年

おおもりけい じろう（1899）、大森慶次郎は本館建物の一部と土蔵を店舗として大森銀行八代支店を開業しました。昭和 10 年（1935）8 月、大森銀行は第十銀行（現山梨中央銀行）に合併され、営業を終了します。その後は大森家の居宅となり、人々から大森屋敷と呼ばれ親しまれてきました。

郷土館の敷地内には八代町内にあった江戸時代中頃の民家（旧石原家住宅）が移築されており、当時の一般庶民の住宅の様子を窺うことができます。



旧大森銀行



旧石原家住宅

10 定林寺・二子塚

定林寺は日蓮聖人にちれんしょうにんによって開かれたお寺です。鎌倉時代の文永年ぶんえい間(1264～1274年)、日蓮聖人が甲斐国御巡化かいこくごじゅんかの旅に出られました。そして八代の里の地蔵堂に泊まれた夜、東方の塚から鬼火おにびが昇るのを見ました。翌朝、そのことについて村人に尋ねたところ、郷土きないさえもんの早内左衛門ふたごなんざんから「二子を難産して死んだ平家落人の妻子の妄執が鬼火となり、悩ましている」という話を聞きました。そこで、日蓮聖人が法華経ほっけきょうを読誦ずしょうし供養したところ、無事成仏できたとのことです。このことにより早内左衛門は日蓮聖人に深く帰依し、「日林」の名を与えられ、自分の屋敷を寺にしたのが定林寺の始まりとされています。



定林寺山門



日蓮聖人像



二子塚



二子塚の石塔

☆
八代には巨樹・名木
がたくさんあります



荒神堂のケヤキ
樹齢 700 年以上



定林寺のカヤ
高さ約 20m



熊野神社のイチョウ
高さ約 29m



熊野神社のコウヤマキ
高さ 21m
~ 16 ~



二子塚のサワラ
高さ約 17m

MEMO

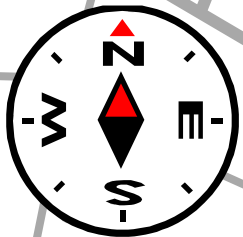




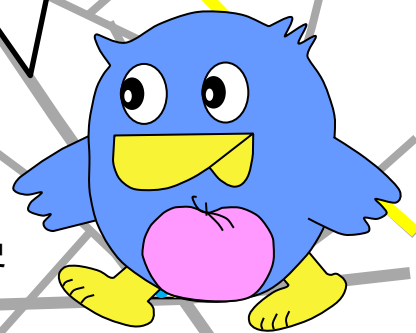
てくてく 古道を歩こう
市川道～八代編～

笛吹市教育委員会
文化財課
TEL 055-261-3342

市川道(八代地区) てくてくマップ。



市川道は、五本辻に道標があり、オレンジ色の道筋を通りますが、この道はおみゆきさんで神輿が通った「御幸道」とも重なります。
今回は点線のルートを散策しますが、約4.8kmの道のりです。



☆「市川道」の推定ルートは、『山梨県歴史の道調査報告許第15集市川道』を参考にしています。